



写真は、時代をつなぐ タイムトンネル

みなさんが、ふるさとを連想するものはなんでしょうか。美しい風景は、もちろんのこと、遊びまわった山や川。運動会や遠足など、思い出の風景は人それぞれです。おこずかいを握りしめて商店や駄菓子屋に一目散に駆けつけた場面も思い出の1シーンではないでしょうか。

上の写真は、昭和30年代後半～昭和40年初頭の三文字の様子です。建設中の道路は国道220号線で、

工事にあわせて移設された消防詰所（元中央分団消防詰所）にあつたやぐらから撮影されたものです。

三文字商店街の歴史は、明治36年の大崎百引牛根線が開通した時、宮地善五郎氏が三文字交差点の牟田地（泥湿地）を埋め立ててそば屋を開業したことに始まりまます。

明治40年頃は、そば屋と郵便局、文房具屋の3軒だけでしたが、大正4年の松岡食品雑貨店の開業を皮切りに、移住してきた人々が広大な牟田地を埋め立てて、大崎町の中心的な商業地帯を形成しました。

写真は、時代をつなぐタイムトンネル。古い写真を眺めながら、思い出話に花を咲かせませんか。

あの日、あの時、あの場所へ

時代をつなぐ タイムトンネル



*大崎町内の昔懐かしい風景や、建物、まつりなどの古い写真を随時募集します。詳しくは、下記問い合わせ先まで連絡下さい。



古い写真を
探しています！

問
大崎町役場
企画調整課
企画広報係
☎ 476-1111(223)

▲現在の三文字の様子（国道220号郵便局付近）